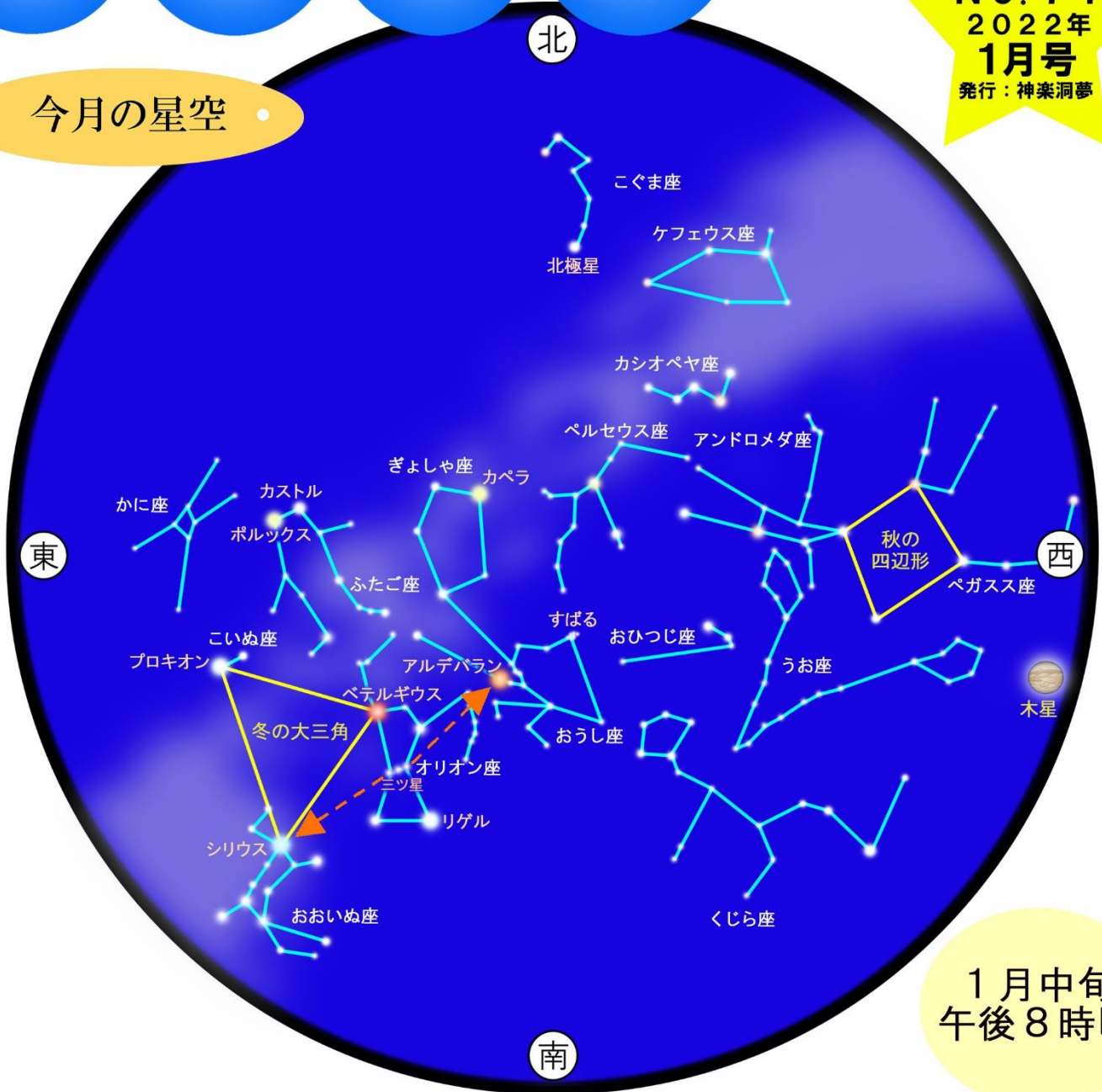


# 神楽通信

No. 71  
2022年  
1月号  
発行：神楽洞夢

## 今月の星空



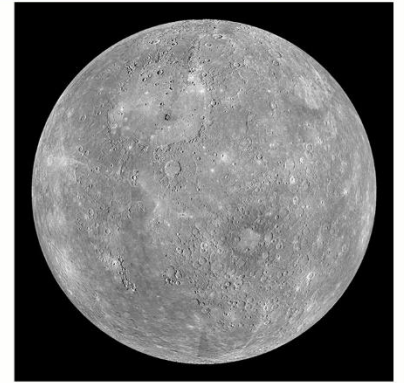
1月中旬  
午後8時頃

新年の夜空には、冬の星々が美しく輝いています。まず目につくのがオリオン座です。三ツ星から左下に視線をうつすと青白いシリウスを、右上にうつすとオレンジ色のアルデバランを見つけることができます。他にもプロキオンやカペラなど、オリオン座の周りには明るい星々があり、とても華やかです。

## 見ごろの「水星」

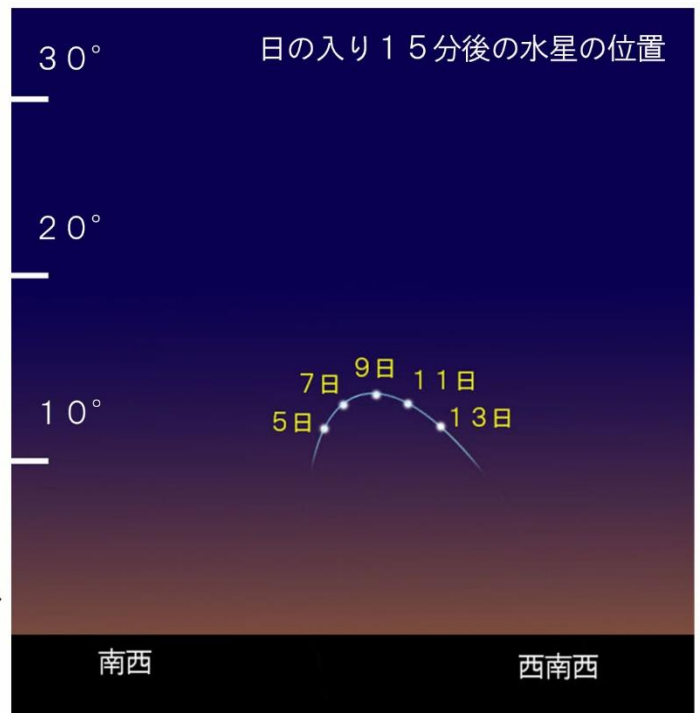
今月の上旬から中旬にかけて、夕方の西の空で水星を見つけやすくなります。水星とは、どのような天体なのでしょう。

水星は大きさや見た目が、月とよく似た天体です。太陽系の惑星の中で最も太陽に近く、日が当たる部分の温度は430度もあります。太陽の重力の影響を強く受けるため、水星の探査は難しく、訪れた探査機は45年でたったの2機のみで、水星は未だ謎の多い惑星です。現在、日本と欧州の共同で進められている水星探査計画「ベピ・コロombo」では、日本の水星磁場圏探査機「みお」と欧州の水星表面探査機「MPO」が、水星の謎の解明に挑みます。



水星の全体（提供：NASA/Johns Hopkins University Applied Physics Laboratory/Carnegie Institution of Washington）

水星は見かけの位置が太陽から大きく離れることがないため、夕方や夜明け前の短い時間しか見ることができません。特に、太陽と見かけの位置が最も離れる「最大離角」の頃が、水星を見つけるチャンスです。今月上旬から中旬の夕方にかけて、水星は南西の低い位置にあります。最も見やすいのは7日～11日頃で、西の空が開けた場所で観察するのがおすすめです。



水星を見つける難易度は高めですが、方角や高さなどを調べておけばかなり探しやすくなります。今年の運試しに見つけてみるのもいいかもしれませんね。（原田）